



第35号

【発行】

社会福祉法人
秋田県社会福祉事業団

〒010-1412
秋田市御所野下堤五丁目1番地の1
TEL 018-889-8360 FAX 018-889-8361
HP <http://www.fukinoto.or.jp>
e-mail mail@fukinoto.or.jp



災害ボランティア活動

【目次】

- P 2 ・ 理事長あいさつ
・ 研修報告
・ 強度行動障害支援者養成研修
・ フォローアップ研修
- P 3 ・ 定年退職者からのメッセージ
- P 4 ・ 定年退職者からのメッセージ
・ 表彰
- P 5 ・ 新規採用職員紹介
- P 6 ・ 社会福祉事業団実践発表会及び基調講演
・ 令和元年度職員提案受賞について
・ スポーツ活動紹介

ホームページからも
閲覧できます。
詳細は、[コチラから](#)↓



★FACEBOOK随時更新中★

令和元年十月中旬に日本に上陸した台風十九号は、関東・甲信・東北地方で記録的な大雨をもたらし、河川の氾濫による浸水等甚大な被害が発生しました。こうした状況から、被災した地域の復興支援のため、今回は令和元年十一月一日岩手県釜石市でボランティア活動を実施しました。

当日は当法人の職員二十名が、普段は高齢者の交流場所として利用されている田畑から泥や砂利を掻き出したり木材等を運搬したり清掃活動に汗を流しました。

今後も様々なニーズに目を向け、幅広くボランティア活動に取り組みたいと考えています。

災害ボランティア活動

理事長あいさつ



社会福祉法人 秋田県社会福祉事業団
理事長 熊谷 淳

いつもの年に比べて格段に早く芽吹き始めた草木に做って、新しい年度の仕事に取り組んでいきたいと思えます。

まず、令和七年度までの道標となる五カ年経営計画の策定です。

平成二十八年度からの足取りを振り返ると、社会福祉法人改革に沿ったガバナンス強化や、自前施設として由利本荘地域生活支援センターと障害者支援センター御所野のオープンなど自立化へのステップを着実に踏み出すことができました。

こうした足取りを総括し、次の五年間で取り組むべき課題を整理するとともに、各施設の若手職員などで構成する経営改善チームからのアイデアも盛り込みながら、目標をしっかりと定めて具体的なアクションプランにしたいと思えます。

次は、利用者の権利擁護です。令和元年度の虐待疑い事案を教訓として、利用者の人権擁護のための取組を強化する必要があります。この三月に改訂した虐待防止マニュアルに基づき、各施設の虐待防止委員会を中心に、全職員対象の自己点検結果を検証すると

ともに、虐待が疑われる事案等発見時の通報を徹底します。

また、新たに虐待防止責任者会議を設け、各施設の年間を通じた取組を協議するほか、施設長や虐待防止マネージャーを対象とした新たな研修や階層別研修の拡充など職員一人ひとりの意識改革に取り組んでいきます。

三つめは、利用者本位のサービス提供を担う人材の確保と育成です。

令和元年度から始めた勤務するエリアを限定する職員の採用や定年退職後もキャリアを生かして仕事ができるよう継続雇用の受け皿の拡大に引き続き取り組んでいきます。

また、国の新たな処遇改善加算を活かして、キャリアや介護福祉士などの資格のある職員に重点をおきながら、支援を担う職員の待遇改善を図っていきます。

さらに、同一労働同一賃金制度を踏まえ、正規・非正規職員の格差是正に取り組むほか、職員のやる気を引き出せる新たな人事評価制度を検討していきたいと思えます。

職員と議論を重ねながら、事業団の更なるバージョンアップを目指します。



研修報告

強度行動障害支援者養成研修 フォローアップ研修

この研修は、平成二十七年度から秋田県から委託を受けて実施している秋田県強度行動障害支援者養成研修基礎及び実践研修の受講者を主な対象に、より実践に即した支援技術につなげていくことを目的として、行動障がい支援ネットワークあきたと共催で初めて実施しました。

自閉症eサービス代表中山清司氏を講師に迎え、講義と秋田県心身障害者コロニー・高清水園における実践発表を行いました。

秋田県内の障害福祉サービスを行う四十六事業所から、八十三名の参加があり、

「ほかの事業所の支援の取り組みが参考になった」、「中山先生の事例をもう少し詳しく聞きたかった」等の意見がありました。強度行動障がいへの支援に関してさらに学びを深め実践したいという支援者の声が多く聞かれ、今後もフォローアップ研修を継続していきたいと思えます。

今年度は、十月十六日に開催予定ですので、多数の参加をお待ちしております。



令和元年度 強度行動障害支援者養成研修
フォローアップ研修

まとめ
①eサービスの提供を促すための支援者養成研修
②実践研修の成果発表
③実践研修の成果発表
④実践研修の成果発表
⑤実践研修の成果発表

定年退職者からのメッセージ



秋田県南部老人福祉総合エリア
居宅支援センター
センター長 土田 礼子

私は、この南部エリアから一度も転勤したことがなく、産休代替職員、非常勤職員（現在の契約職員）を含め、二十九間お世話になりました。後半は訪問介護事業所勤務となり、介護保険と歩んだ十三年間でもありました。利用者は全員が人生の大先輩であり「人はどのように老いていくのか、どう老いるべきなのか」沢山のことを学ばせていただきました。今こうして、健康で定年退職を迎えることができるのも、まわりの方々の支えがあつてのことと感謝しております。ありがとうございます。



秋田県南部老人福祉総合エリア
管理事業課
上席技師 遠藤 勉

平成三年、秋田県社会福祉事業団に職員として採用されて無事に定年退職を迎えることができました。思い起こせば、福祉の分野など何も解らず二十九年前に足を踏み入れて、これまで勤務できたのは諸先輩方をはじめ周りの皆様のご協力と温かいお力添えを頂いたおかげで有意義で楽しい職場生活を過ごすことができた事に心から感謝の気持ちでいっぱいです。
今まで教えていただいた事を貴重な経験としてこれから第二の人生に生かして行きたいと思えます。本当に長い間お世話になりました。



秋田県心身障害者ココロ二
支援部長 近藤 薫

四十年余り勤め、定年退職を迎えるにあたり、まずは、皆様にお礼を申し上げます。自分はどれほど福祉に貢献できたのか大きな疑問を残しながらの退職となりますが、自分にとっては、かけがえのない時間でした。その中で利用者様からは、人としての生き方を教えて頂いた気がします。利用者様が自分の病気や死を前にした際の姿を何度か目の当たりにしてきました。ありのままを受容し、生きようとする力や、死に対して抗うこともない潔さは、到底真似できるものではないと痛感させられました。本当に貴重な経験をし、思い出も沢山となりました。最後になりますが、この福祉という尊い仕事に従事できたことを誇りに思っています。と同時に、感謝の気持ちでいっぱいです。



秋田県心身障害者ココロ二
支援係長 土田 優子

昭和五十七年、ココロ二総務課が採用先でした。事務業務から支援現場に異動となり合わせて三十八年、臨時期間を含めると四十年近く経過となります。よくこの年月を勤めてこられたものだなあと感じていきます。これも異動先々で出会えた皆様の温かいお声がけや支えがあつたからこそと深く感謝いたします。
利用者からもさまざまなことを教えていただきました。また十数名の利用者を見送ることとなり、その家族からいただいた言葉も支えにさせてもらい頑張ってきました。
満開の八重桜や花吹雪、新緑の頃は毎日が心機一転と士気を高め、夕日に彩られた山下を眺めながら帰宅を急ぎ、白銀の景色と四季折々の孫七山の自然にも感謝を加えたいと思います。



秋田県心身障害者ココロ二
支援係長 渡辺 進

昭和五十八年に事業団に採用になってから途中、阿桜園に二年お世話になった以外は、三十年以上ココロ二の支援員として過ごさせて頂きました。長きにわたってやってこられたのも、利用者の皆様や周囲の皆様が支えがあつたおかげだと感謝しております。福祉の世界も随分変わりました。今は社会状況の多様化・複雑化に合わせて職員が要求されるものも多くなり、現状についていくのが苦しい時もありました。時代の変化とはいえ、がむしゃらに利用者の方々の為に支援していた日々を、とても懐かしく思います。
事業団で過ごした思い出を大切にしながらまだまだ続く人生を楽しんでいきたいと思えます。本当にありがとうございます。



秋田県心身障害者ココロ二
支援係長 深井 秀樹

ココロ二祭で中央公園の芝生を腰の曲がった母親と思われる老人が車椅子の利用者をおんぶして歩いていました。「最愛の弟でした」と涙を流して利用者を見送った家族がいました。「病気に負けてしまいました」と利用者の母親がココロ二に最愛の息子を残して秋田を去り、その後亡くなられたと聞きました。
生活圏が同じだと利用者の家族と地域で顔を合わせることも多く、いつも利用者の方々にその家族や「最愛の人」に対する想いに沿いたいと思ってきました。そしていつの間にか定年を迎えました。人に恵まれたココロ二での生活でした。ありがとうございます。

定年退職者からのメッセージ



秋田県心身障害者コロナー
主査 榎本 義弘
管理課

この度、無事定年退職を迎え、皆様には、大変感謝申し上げます。
平成九年四月に、福祉サービスを展開する秋田県社会福祉事業団に採用になり、二十三年余りではあります。コロナー、訓練センター、高清水園、中央エリアと勤務させて頂きました。この間、施設利用者の方々は様々なことを学ばせもらい、また職員、諸先輩の方々の御指導やアドバイスをいただき、今日まで無事勤務できたことに、心より感謝申し上げます。
最後に、これからも利用者皆様の幸せと、福祉サービスを提供する職員皆様のご活躍を祈念申し上げ、退職のメッセージとさせていただきます。ありがとうございました。



由利本荘地域生活支援センター
所長 高橋 ひろみ

人生六十年長い時間のようでもあり、瞬く間の一瞬であったようにも感じられる不思議な感覚があります。この度定年退職という区切りを迎えることができましたのも、沢山の方々の出会いのお陰様であつたと感謝申し上げます。昭和・平成・令和と時代の流れに溺れそうになりながらも、いつも傍らに沢山の笑顔と金子みずぶさんの「鈴と小鳥とそれから私」みんなちがって、みんないいの一説がありました。有難いことです。
これからも、途切れることのない支援の現場で働かれる皆様のご健勝とご活躍をお祈り申し上げます。お礼の言葉とさせていただきます。



阿桜園 管理課
主査 杏澤 寿子

退職にあたり、今まで一緒に仕事をしてきたメンバーと関係各位の方々に、心から感謝申し上げます。思い返せば、二十数年前、思いもよらないお誘いで、私はこの仕事に就きました。時間との戦いや、作業の組立てなど、四苦八苦の毎日でしたが、貴重な経験を経ることが出来私にとって、今では天職になったと思っております。本当に皆様のおかげです。朝昼夕と、何気なく食べている食事ですが家庭と同様に、気持ちの入った調理を心がけて来ましたが、食事という、利用者様にとって大事な時間のお手伝いが出来たこと、うれしく思います。
今まで、本当にお世話になり、ありがとうございました。

早期退職者

秋田県心身障害者コロナー

主任 加藤 恭子

事務員 照井 桃子

支援員 福田 大輔

阿桜園

支援員 佐々木 駿太

皆様のご活躍を
心よりお祈り申し上げます。

表彰

○社会福祉功労者厚生労働大臣表彰
社会福祉事業従事功労者

秋田県心身障害者コロナー
支援部長 近藤 薫
由利本荘地域生活支援センター
所長 高橋 ひろみ

○全国社会福祉協議会会長表彰
永年勤続功労

由利本荘地域生活支援センター
所長 高橋 ひろみ
秋田県心身障害者コロナー
支援係長 土田 優子
支援係長 渡辺 孝二
支援係長 齋藤 進

○全国社会福祉事業団協議会
永年勤続者表彰

秋田県社会福祉事業団事務局
主査 下間 直人
主査 田村 公陽
主査 佐々木 聡
主査 片岡 寛
北部老人福祉総合エリア
主査 藤岡 靖雄
高清水園
主査 高橋 智彦
主査 宮田 史子

秋田県心身障害者コロナー
主査 高橋 百合子
主査 熊谷 優貴
主査 天野 洋司
主査 利部 香織
主査 後藤 千穂子
主査 佐々木 綾子
阿桜園
主査 神保 明

やまばと園
主査 鈴木 美穂子
障害者支援センター御所野
主査 羽川 毅郎
主査 石田 麻衣子
主査 越後谷 和子

受賞おめでとうございます。

令和二年度 新規採用職員紹介

新規採用職員のみなさんに聞きました！ 事業団職員としての今後の抱負

	<p>事務局 事務員 天野 帆乃夏</p> <p>経営管理課</p> <p>私の事業団職員としての抱負は、利用者の方々に感謝される職員になることです。そのために私の持ち前である元氣と笑顔で接することを心がけています。</p>		<p>秋田県障害入福祉センター 居宅支援センター</p> <p>支援員 高橋 彩子</p> <p>利用者様が安心して充実した毎日が送れるよう、事業団職員としてより一層責任感をもってサービスを提供していきたいと思っています。</p>		<p>秋田県障害入福祉センター 支援部経費老人ホーム</p> <p>支援員 佐藤 来未</p> <p>入社後は、職員の方や利用される方との意思疎通をしっかりと行い、多くの人に信頼してもらえるような職員になっていきたいと思っています。そして、今まで支えて下さった方々に感謝の気持ちを持つことを忘れずに、立派な社会人になれるよう頑張っていきたいです。</p>		<p>高清水園 支援課</p> <p>支援員 富田 睦美</p> <p>職員の関り方が利用者様の「生活の質」を左右するということを常に念頭に置き、笑顔と穏やかな心で職務に当たりたいと思います。</p>
	<p>秋田県心身障害者センター 支援部地域支援課</p> <p>支援員 大滝 将也</p> <p>少しでも多くの事を吸収し、利用者の方々の笑顔や充実した生活のために寄り添っていきけるような支援を目指したいと思っています。よろしくお願ひいたします。</p>		<p>秋田県心身障害者センター 支援部創生支援課</p> <p>支援員 金澤 勇介</p> <p>出来ない事や分からない事で先輩方にご迷惑をおかけする事もあると思います。精一杯頑張りますのでご指導よろしくお願ひいたします。</p>		<p>秋田県心身障害者センター 支援部銀杏支援課</p> <p>支援員 三ツ井 悠介</p> <p>大学在学中に身につけた知識や技術を活かして、利用者様が施設や地域で安心して生活できるように支援を行えるよう努めています。</p>		<p>秋田県心身障害者センター 支援部銀杏支援課</p> <p>支援員 田村 真鈴</p> <p>事業団職員として、利用者の方々と共に歩み支えていけるよう精進して参ります。ご指導ご鞭撻の程どうぞよろしくお願ひします。</p>
	<p>秋田県心身障害者センター 支援部赤光支援課</p> <p>支援員 伊藤 暢子</p> <p>四月より採用となりました伊藤暢子と申します。日々学び、利用者の方々に寄り添っていきたいと思います。よろしくお願ひいたします。</p>		<p>秋田県心身障害者センター 診療所</p> <p>看護師 須藤 真子</p> <p>利用者の方々が、安心して生活を送る事が出来るよう、笑顔をお忘れず一人ひとりに寄り添い誠意をもってケアやサポートに努めていきたいと思っています。</p>		<p>秋田県在宅生活支援センター 管理支援課</p> <p>事務員 佐藤 史菜</p> <p>私の事業団職員としての抱負は、いつまでも施設を利用する方々への敬意を忘れず、丁寧な対応を心がけることです。</p>		<p>秋田県聴覚障害者支援センター</p> <p>支援員 岡崎 真理子</p> <p>皆様の交流の場となるよう、明るいセンターを目指します。聴覚障害者の社会参加の機会が増えることを願ひ、努めてまいります。</p>
	<p>阿桜園 支援課</p> <p>支援員 戸巻 あゆみ</p> <p>この度は、採用していただき本当にありがとうございます。今後は事業団職員の一員として、「社会に役立つ」ということを信条に、日々精進していきたく思います。</p>		<p>阿桜園で七年間、支援員として働いていました。正職員となり、改めて利用者さんの為に出来ることは何かを考えながら日々、支援をしていきます。</p>		<p>障害者支援センター御所野 支援課</p> <p>支援員 深浦 瞳</p> <p>関わらせて頂く方々との出会いに感謝しながら、日々学びを深めていきたいと思っています。そして、ご縁を頂いた方々に役立つ形でお返しできるように努めて参ります。</p>		<p>阿桜園 支援課</p> <p>支援員 佐藤 万里子</p> <p>四月より勤務させていただきました佐藤万里子です。事業団の職員として利用者の方々の笑顔が一つでも増えるよう精進してまいります。</p>

社会福祉事業団実践発表会及び基調講演

令和元年十二月十二日、秋田拠点センターAL☆VEを会場に「秋田県社会福祉事業団実践発表会及び基調講演」を開催し、一般の方を含め、七十四名の参加がありました。

実践発表では、秋田県南部老人福祉総合エリアから「秋田県南部老人福祉総合エリア軽費老人ホームにおける入居者の満足度アップのための取り組みと今後の課題」について、阿桜園からは「阿桜園における措置入所から地域での生活に至るまでの歩み」についてと二つの実践報告がありました。助言者である秋田大学教育文化学部准教授の鈴木徹氏から講評をいただき、利用者自身が求めるニーズと支援員の視点から明らかにするニーズとの違いについてお話があり、サービスタとは本来どの視点から検討し提供されるべきなのかを考える貴重な機会となりました。



また、基調講演では、講師に社会福祉法人みぬま福祉会工房集管理者の宮本恵美氏をお招きし、「こころの情景をつむぐ支援」と題し、ご講演をいただきました。宮本氏からは、好きなことや得意なこと、焦点を当てた表現活動を通してもたらされた「社会とつながること」「お金を稼ぐこと」「発達に資すること」について、利用者本人が生きがいを感じることで楽しみとなり、地域社会において障がいのある方を受け入れる素地ができていくこととを、エピソードを交えてお話されました。最後に、秋田公立美術大学ものづくり専攻准教授の安藤郁子氏との対談から、これまでの取り組みにおける悩みや表現活動を行う上でのヒントがどこから湧いてくるのかなどの質問がなされ、そのお話は今後の活動の示唆となりました。

スポーツ活動紹介

○秋田県バドミントン協会主催
令和元年度（第六十四回）全県総合バドミントン選手権大会
男子ダブルス 優勝
秋田県心身障害者コロニー 支援員 野呂 誠也
障害者支援センター御所野 支援員 伊藤 広太



おめでとうございます。

表彰	提		役職	氏名	テ
	所属	案			
優良賞	事務局	高清水園	課長	鈴木理絵子	ー
優秀賞	障害者支援センター御所野	支援係長	管理係長	高橋牧子	マ
		木村英司	工藤撰子	ケース記録の好事例集作成について	
		支援の手引きの作成	モニター通信での法人内会議	虐待防止について	

今後実施に向けて取り組んでまいります。

提案件数 八十四件

令和元年度 職員提案受賞について